

# 特別支援学級担任の手びき



## ～Vol.3 自立活動の指導について～

### ① 自立活動の目標

ここでいう「自立」とは児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味しています。

児童生徒の実態に応じ、日常生活や学習場面等の諸活動において、その障害によって生ずるつまずきや困難を軽減しようとしたり、また、障害があることを受容したり、つまずきや困難の解消のために努めたりすることを明記したものです。

#### 自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

一人一人の児童生徒の発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面をさらに伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を促進することを意味しています。

「改善から克服へ」といった順序性を示しているものではないことに留意する必要があります。

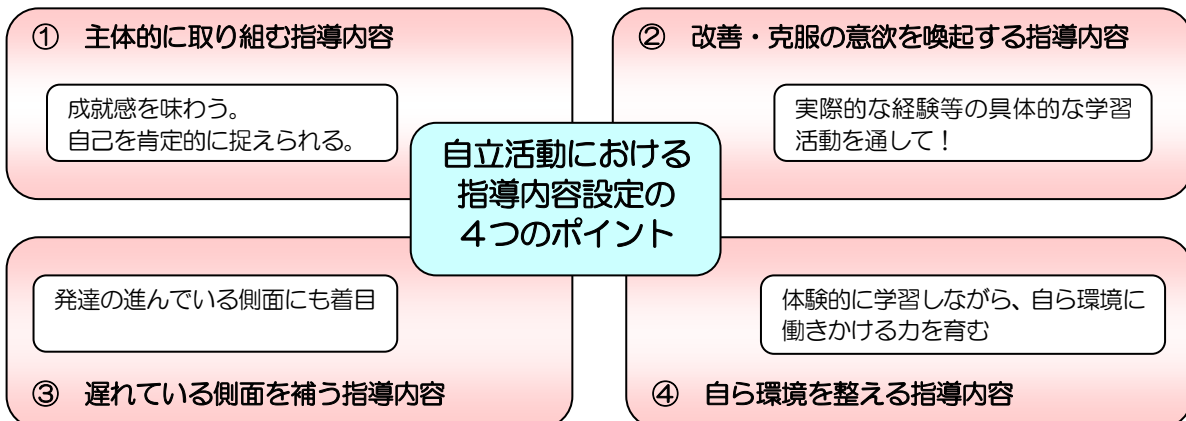
## ② 自立活動の指導内容

「自立活動」とは、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための『指導領域』です。特別支援学校学習指導要領には、代表的な26項目の要素が6区分に分類・整理され示されています。

小・中学校の学習指導要領に示されている各教科等の内容は、すべての児童生徒に対して確実に指導しなければならない内容であるのに対して、自立活動の内容は、個々の児童生徒の障害の実態等に応じて選定されるものです。また、内容は具体的に設定される指導内容の「要素」となるものであり、必要な項目を選定し、相互に関連づけ具体的な指導内容を設定することが大切です。

### <自立活動の内容>

<p>1. 健康の保持</p> <p>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。</p> <p>(4) 健康状態の維持・改善に関する事。</p>	<p>2. 心理的な安定</p> <p>(1) 情緒の安定に関する事。</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。</p>
<p>3. 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかわりの基礎に関する事。</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関する事。</p>	<p>4. 環境の把握</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関する事。</p> <p>(2) 感覚や認知の特性への対応に関する事。</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。</p>
<p>5. 身体の動き</p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。</p> <p>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事。</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。</p> <p>(4) 身体の移動能力に関する事。</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。</p>	<p>6. コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的な能力に関する事。</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関する事。</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関する事。</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。</p>



### ③ 教育課程における自立活動の位置づけ・指導上の留意点

自立活動の目標は、個々の児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することです。そのため、必然的に一人一人の指導内容や指導方法が異なり、授業時数についても、個々の児童生徒の障害の状態に応じて適切に定めることとなります。

自立活動は、その指導の目標に向けて、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心としながら、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行われます。(図1を参照。)

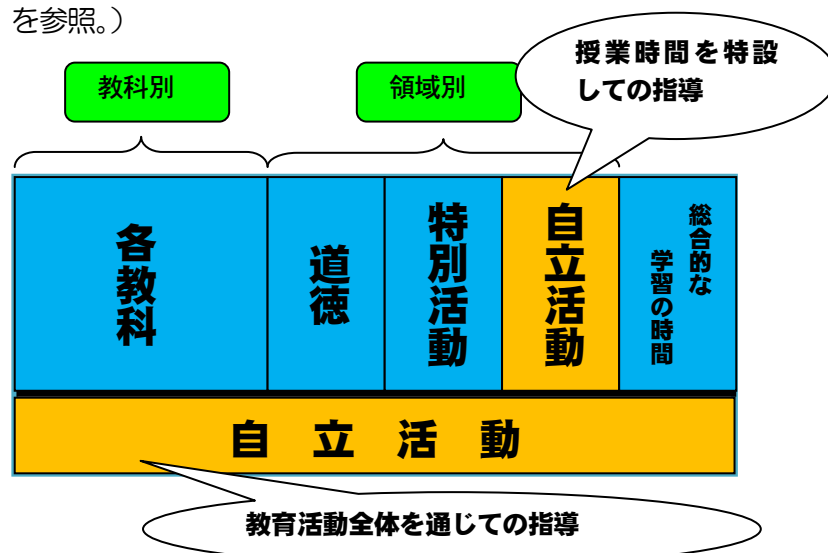


図1 教育課程内における自立活動の位置づけのイメージ

このことは、各教科の中でも必要に応じて、部分的に自立活動の指導を取り入れながら学習を進めていくことができるということです。ただし、この場合、あくまで主は各教科の学習であることに留意し、授業の流れにそって、自立活動の指導を組み込んでいくというイメージになります。

また、自立活動の指導に当たっては、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画が作成されることとなります。したがって、個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多くなりますが、指導の目標を達成する上で効果的である場合には、児童生徒の集団を構成して指導することも考えられます。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意することが重要です。

### ④ 自立活動の具体的な指導内容について

自立活動の指導に当たっては、児童生徒の多様な情報を整理し、指導の目標や具体的な指導内容を定めます。次ページに示す例を参考に、「実態把握→指導目標→指導内容」の一連の流れの中に自立活動の項目がどのように関連し合っているか確認してみましょう。

<具体的な指導事例>

○知的障害特別支援学級に在籍するAさん（小学校2年生）の指導計画

① 子どもの実態把握

実態を明確にし、どのような困難の改善・克服のために指導を行うのか、児童生徒の教育的ニーズを整理します。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理						
実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		未経験な場面の状況を理解することが難しく、不安になることがある。	過去の失敗体験を思い出し、行動することをためらうことがある。	語い能力に課題があり、話を聞いて理解することが難しい場合がある。		話の内容理解が苦手であるため、会話の内容や状況に応じた受け答えが難しい場合がある。

②いくつかの指導目標の中で優先する目標として

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話を聞いて理解する力を高めるために既知の言葉を増やし、コミュニケーションにおける自信を高めさせる。</li> <li>●未経験な場面においては予想される状況を予告したり、事前に体験できる機会を設定したりすることで、活動参加への意欲をもたせる。</li> </ul>
------	--

③指導目標を達成するために必要な項目の選定

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		状況の理解と変化への対応に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること	感覚や認知の特性に関すること		状況に応じたコミュニケーションに関すること

④選定した項目を関連付け、具体的な指導内容を設定

指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Aさんが興味・関心をもっている事柄や日常生活に関連のある事柄を用いながら言葉遊びを行う。</li> <li>●生活経験の言語化、体験と言葉の関連付けなどを行いながら語いの習得を図り、言葉を生活の中で活かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Aさん自身の力で達成できる活動内容を設定し、自己肯定感を高めるようにする。</li> <li>●未経験な場面においては活動の流れを予告したり、事前に体験させたりすることで参加への意欲をもたせ、達成することによって自信を高められるようにする。</li> </ul>
------	--	---

具体的な活動設定

・実態をふまえ、自立活動の様々な項目を組み合わせ設定します。  
 ・日々、指導の効果を評価し、指導の工夫・改善を図ることが重要です。